



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第三〇九号〜

霜降 そうこう

十月二十四日

伊勢の円空さん

生木を鉦なたでたち割り、荒削りした独特の仏像。その不思議な姿やほほ笑みは、職業仏師のものとは一線を画し、「円空仏」と呼ばれます。江戸時代初め、全国を漂泊した僧、円空が彫った仏像です。

その円空仏が、伊勢にも伝わっていました。三重県総合博物館で開催中の「三重の仏像」展で、中山寺ちゅうざん（伊勢市勢田町）の円空作の文殊菩薩坐像を拝見。新たに確認されたもので、円空が本格的に仏像を造り始めた寛文三年（一六六三）から五年頃の初期の作品と考えられています。鉦掘りの荒々しさはなく、ていねいな仕上げがなされており、シャープな印象を受けました。表面は黒褐色をしていますが、当初はヒノキの素地であったと推測され、目がきりりと上がったお顔といい、精神性の高さがかげえました。

そして、菰野町こものちやうの明福寺に伝わる「両面仏」は珍しいものでした。ヒノキと思われる一枚の厚い板材に、背中合わせに薬師如来と阿弥陀如来を彫ったもの。一つの材に薬師さまと阿弥陀さまという異なる二体の仏さまがいらっしやる、円空さんの大胆な発想に驚きました。こちらは鉦掘りの円空仏です。

この「両面仏」が、もともとは伊勢市の常明寺に安置されていたものとなり、驚きました。廃寺となった明治時代に菰野に移されたといわれています。明治時代、伊勢ではお寺が廃され、仏像が壊されるといはいぶつがしやくう廃仏毀釈が大規模に行われたとされますが、この「両面仏」もその一つであったのです。

伊勢の歴史も刻んだ円空仏でした。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第17回神恩感謝日本太鼓祭

全国各地の郷土色豊かな太鼓が伊勢に集い、日々太鼓が叩ける喜びと感謝の思いを太鼓の音に乗せ、神様に奉納します。

と き／11月 9日(土) 10:00～17:30

10日(日) 9:30～17:30

ところ／伊勢内宮前おかげ横丁一帯(雨天一部内容変更あり)

入 場／無料

出演団体：岩崎鬼剣舞(岩手県)、喜連川公方太鼓(栃木県)、
三宅島芸能同志会(東京都)、八丈太鼓の会(東京都)、
大江戸助六太鼓(東京都)、太鼓芸能集団 鼓童(新潟県)、
御陣乗太鼓保存会(石川県)、弓ヶ浜祭太鼓の会(静岡県)、
熊野鬼城太鼓(三重県)、神恩太鼓(三重県)、
舞太鼓あすか組(奈良県)、備中温羅太鼓(岡山県)、
豊の国ゆふいん源流太鼓(大分県)

● 奉納太鼓演奏

と き／11月 9日(土) 10:00～17:30

10日(日) 9:30～17:30(会場により異なる)

ところ／おかげ横丁「太鼓櫓」、五十鈴川河川敷特設舞台、
五十鈴川野遊びどころ中庭会場 他

● ミニ太鼓作り(協力：(株)浅野太鼓楽器店)

ケヤキの胴に革を張る、本格派の太鼓を作ってください。

と き／11月9日(土)、10日(日) 12:30～14:00(約90分)

※当日10:00より受付

ところ／横丁棋院

参加費／有料(両日とも1日先着20名 ※一家族につき2つまで。中学生以下のお子様の場合、一人につき保護者一名の同伴が必要。)

五十鈴塾

○ 御代替わりを寿ぐ

令和となり、新天皇が即位されました。即位に伴う儀式として、来る10月22日には「即位礼正殿の儀」、続いて11月14日から15日にかけては「大嘗祭」が行われます。江戸時代には、紫宸殿の前で行われた即位式の様子が屏風に描かれました。唐風の装束で華やかに繰り広げられた式典は、現在の「即位礼」とは異なる点も多いようです。「大嘗祭」は新天皇が初めて行う新嘗祭のこと。神に供える新米を献上する悠紀地方・主基地方から、大嘗祭後の饗宴の場に飾る屏風が献上されました。今は著名な日本画家が両地方の風景を描きますが、江戸時代までは御用絵師が四季の景物を描いていました。天皇の即位に伴う調度、「屏風」が果たした役割を最新の知見からお話します。

と き／11月7日(木) 13:30～15:00

講 師／岡野 智子(細見美術館上席研究員)

参加料／一般1,450円 会員950円

ところ／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

かしこじま ゆうば
賢島の夕映え

夕陽がリアス式の入り江を照らす、賢島のたそがれ時。その見事な眺めを、羊羹とそぼろ餡を交互に流して仕上げました。

やま にしき
山の錦

二色の白餡と栗餡で、粒餡入りの茶巾絞りにいたしました。神路山の錦秋をお楽しみください。

はつしも
初霜

そぼろの村雨生地で黒糖餡を包み、蒸し上げました。白い氷餅のあしらいで、初霜に見立てた趣向です。